

令和 5 年度
環境経営レポート

(対象期間：令和 5 年 6 月 1 日～令和 6 年 5 月 31 日)

- I 組織の概要・対象範囲・レポートの対象期間、発行日
- II 環境経営方針
- III 環境経営目標
- IV 環境経営計画
- V 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容
- VI 環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
- VII 代表者による全体評価と見直しの結果

令和 6 年 6 月 25 日

協同組合 長野県中古自動車リサイクルセンター 東部町事業所





I. 組織の概要・対象範囲・レポートの対象期間及び発行日

(1) 事業所名及び代表者

事業所名：協同組合長野県中古自動車リサイクルセンター 東部町事業所

設立：平成7年2月10日

出資金：1億1,100万円

代表者名：所長 小川 政勝

(2) 所在地

長野県東御市加沢128-1

(3) 環境経営管理責任者及び担当者氏名、連絡先

環境経営管理責任者 正木照久(事務長)

環境経営管理担当者 和田厚志(総務課課長)

連絡先；電話 0268-63-0155

FAX； 0268-61-0088

(4) 事業活動の内容

- ・使用済自動車の回収・解体
- ・資源再利用等の処理

(5) 事業規模

主要製品の生産量・出荷額

- ・使用済自動車処理台数：3,879台(令和5年度)
- ・売上高：317,205,000円(令和5年度実績)
- ・従業員数：25名(令和6年6月1日現在)
- ・敷地面積：27、161m²
- ・事業所延べ床面積：3、189m²
- ・事業年度：6月1日から5月31日

(6) 認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：長野県中古自動車リサイクルセンター 東部町事業所

(7) レポートの対象期間及び発行日

対象期間：令和5年6月1日から令和6年5月31日まで

発行日：令和6年6月25日

(8) 許可の内容、実績

自動車リサイクル法関係

許可の内容	許可番号	登録日	有効期限
引取業者登録	20201000012	令和4年5月9日	令和9年5月8日
フロン類回収業者登録	20202000012	令和4年6月25日	令和9年6月24日
解体業者許可	20203000012	令和1年7月1日	令和6年6月30日



破砕業者許可	20204000012	令和1年7月1日	令和6年6月30日
産業廃棄物関係			
許可の内容	許可番号	登録日	有効期限
産業廃棄物収集運搬業許可	02011045224	令和2年11月30日	令和7年11月29日
収集運搬(積み替え保管を含む。)する産業廃棄物 廃プラスチック類・金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず (廃プラスチック類・金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くずは自動車等破砕物を除く。) 以上いずれも特別管理産業廃棄物であるものを除く。 運搬車両の種類：660 cc軽トラック 1 台 (廃プラスチック類：廃タイヤ) 積替保管施設の面積：9 m² 保管上限：19.8 m³ (金属くず：ホイール) 積替保管施設の面積：4.88 m² 保管上限：1.46 m³ (廃プラスチック類、金属くずの混合廃棄物：ホイール付き廃タイヤ) 積替保管施設の面積：90 m² 保管上限：80 m³ (廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くずの混合物：ヘッドライト及びテールランプ) 積替保管施設の面積：2.75 m² 保管上限：2.16 m³ (廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くずの混合物：フロントバンパー、リアバンパー) 積替保管施設の面積：2.75 m² 保管上限：2.75 m³			
令和5年度実績：0 なお、現在、許可を受けているのみで実績がないため、レポートの対象からは外しております。			
産業廃棄物処分業許可	02028045224	令和2年1月10日	令和7年1月9日
圧縮する産業廃棄物 廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず (廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず			



は、廃自動車に限り、自動車等破砕物を除く。）
以上いずれも特別管理産業廃棄物であるものを除く。

中間処理施設の種類：解体、圧縮施設

処理する廃棄物の種類：上記記載済

処理能力：10 台／日

処理方式：解体、圧縮

処理工程図

収集運搬→解体→圧縮

令和 5 年度実績：0

なお、現在、許可を受けているのみで実績がないため、レポートの対象からは外しております。

フロン関係

許可の内容	許可番号	登録日	有効期限
第一種フロン類回収業者登録	2010014	令和 4 年 2 月 25 日	令和 9 年 2 月 24 日

令和 5 年度受託解体車両：3,853 台

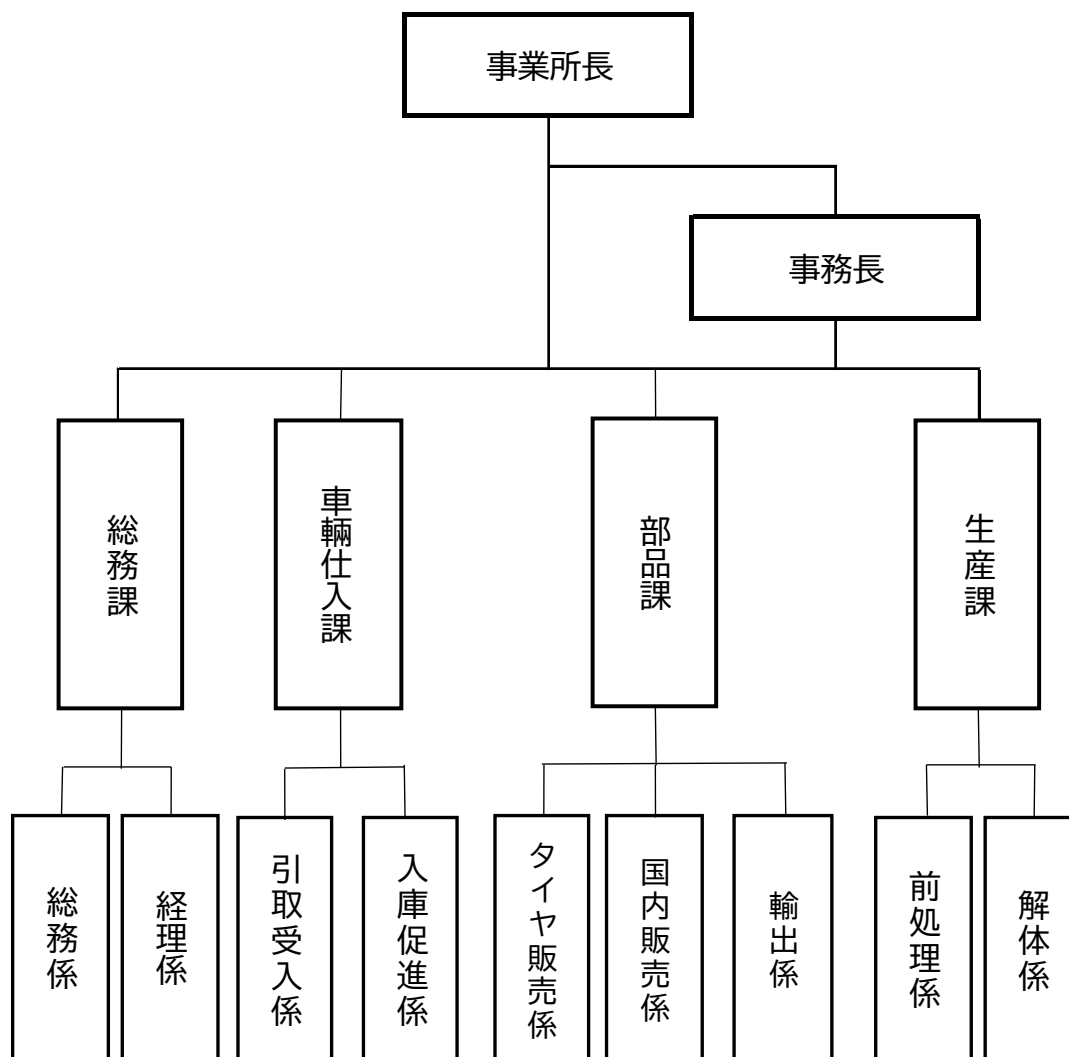
(9) 産業廃棄物(リサイクル)部門の概要

・自動車リサイクル法関係

処理施設の種類	使用済自動車処理施設	許可取得年月日 解体業許可：平成 16 年 7 月 1 日 破砕業許可：平成 16 年 7 月 1 日
処理する廃棄物の種類	使用済自動車	
処理能力(規模)	1 日 90 台・年間 22,860 台	
処理方式	解体・破砕(三方締め圧縮プレス)	モリタ油圧式 3 方締めプレス

長野県中古自動車リサイクルセンター組織図

令和5年度



Ⅱ. 長野県中古自動車リサイクルセンター環境経営方針

基本理念

当センターは、「自動車リサイクル法」が施行される以前の平成7年2月に、長野県内の自動車ディーラーの協同出資により協同組合として発足しました。

当センターは、自動車販売事業者としての企業責任に基づき、ユーザーから引き取った使用済自動車を環境保全に配慮した施設で適正に処理することを基本理念とし、最大限環境保全に配慮した解体・リサイクル事業を目指します。

行動方針

1. センターの経営及び業務効率化等の見直しを行い、エネルギー及び水使用量等の削減に努めます。
2. コピー用紙等購入物資の使用方法を見直し、センター内で発生する廃棄物の削減に努めます。
3. 大気汚染防止、水質汚濁防止等の公害防止対策に努めます。
4. 自動車リサイクル法等環境関連法規を遵守し、使用済自動車のリサイクル率向上に努めます。
5. 使用済自動車内に残置されて持ち込まれる廃棄物の減量を図るため、関係方面に協力を要請します。
6. 当組合から出荷される製品、商品についても、取引相手方の環境に配慮した出荷、販売を目指します。
7. 企業責任を常に自覚し、職員の環境保全意識の向上を図り地域社会への貢献に努めます。
8. 在庫目標値を設定し、組合員各社に協力を求めるとともに、法律に則った組合運営を行い、組合員各社の期待に沿う形での事業運営を行います。
9. 環境経営の継続的改善を誓約致します。

制定日：平成17年11月30日

改定日：令和元年6月1日

協同組合長野県中古自動車リサイクルセンター

東部町事業所

所長 小川政勝

Ⅲ. 環境経営目標

1 令和5年度目標は以下のとおりである。

(維持目標)

(1) 省エネルギー

電力使用量の削減：毎月の使用量は以下の通りとする。

- ・ 6～11月 3月～5月使用量：20,000kWh/月
- ・ 冬季12月～2月使用量：27,000kWh/月
- ・ 年度を通じて261,000kWh/年を超えないようにする。

二酸化炭素排出量を前年比マイナスになるよう、省エネ活動を行う。

(2) 廃棄物の削減

- ・ 用紙の削減：コピー用紙の削減
- ・ 使用済自動車に残置される廃棄物の削減
- ・ 古紙類・段ボール・ペットボトルの分別並びにリサイクルの推進

(3) 節水の取組・・・通年使用量：200m³/月未満

①洗濯用水の削減 ②凍結防止帯の張り替え③冬季水道元栓締め方確認

(4) リサイクル率の向上

- ・ ダスト類の削減を図り、リサイクル率(重量換算比)97%とする。

(5) フロン類の回収向上

- ① フロン類の適正処理の推進・・・2度引きを徹底し、100%回収を図る。
- ②入庫増を目指し、回収量、破壊量ともに数値を上げる。

(6) 対外的事項についての環境配慮

- ① 取引相手方の環境にも配慮した出荷を心がける。
- ②事業所外のゴミ拾いも行う。

(改善目標)

令和5年度事業所目標

年間入庫台数：5,500台の確保

各課目標

車輛仕入課

- ・ 年間入庫台数 5,500 台を目指し、県内の解体車引取りシェア拡大を目指す（現在 4 位となっている順位を、3 位まで上げる。）

生産課

前処理係

- ・ ハーネスの回収量は 8 kg/台とする。



解体係	・ 令和 5 年度の軽油使用量を 140/h に設定する。
部品課	・ 維持目標の再確認と再徹底。 ・ 売り上げ目標については、27,000 円/台とする。
総務課	・ 維持目標の数値維持に努める。 ・ 経営環境維持のため、備品等の節約をお願いする。

2 中長期目標は以下のとおりとする。

維持目標

項 目	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
省エネルギー (KWh/月)	他季節使用量 <20,000kWh/月> 冬季使用量 <27,000kWh/月> 年度を通じて 261,000 k Wh を超えないようにす る。	他季節使用量 <20,000kWh/月> 冬季使用量 <27,000kWh/月> 年度を通じて 261,000K Wh を超えないようにす る。	他季節使用量 <20,000kWh/月> 冬季使用量 <27,000kWh/月> 年度を通じて 261,000 k Wh を超えないようにす る。
二酸化炭素排 出量削減	軽油の使用量をチェッ クし、CO2 削減を目指す。	解体一台当たりの CO2 排 出量を減少させていく。	解体一台当たりの CO2 排 出量を減少させていく。
廃棄物の削減	分別の徹底 リサイクルの推進 廃プラ 5.5t/年を目指す	分別の徹底 リサイクルの推進 廃プラ 5.5t/年を目指す	分別の徹底 リサイクルの推進 廃プラ 5.5t/年を目指す
節水の取り組 み	夏季使用量<200 m ³ 冬季使用量<200 m ³	夏季使用量<200 m ³ 冬季使用量<200 m ³	夏季使用量<200 m ³ 冬季使用量<200 m ³
リサイクル率 の向上	再資源化率 97% 解体台数 5,500 台以上 入庫台数 5,500 台を目指 す。	再資源化率 97% 入庫台数については、 5,500 台に設定する。 解体台数は 5,500 台。	再資源化率 97% 入庫台数、解体台数とも に 5,500 台を目指す。
フロン類の回 収	100%回収 回収、破壊量の増加を目 指す。	100%回収 回収、破壊量の増加を目 指す。	100%回収 回収、破壊量の増加を目 指す。
対外的事項に ついての環境 配慮	コンテナ及びガラ出荷 時、出荷後において顧客 からのクレームゼロ。 ・ ごみゼロ活動の継続。	コンテナ及びガラ出荷 時、出荷後において顧客 からのクレームゼロ。 ・ ごみゼロ活動の継続。	コンテナ及びガラ出荷 時、出荷後において顧客 からのクレームゼロ。 ・ ごみゼロ活動の継続。



改善目標			
項 目	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
事業所目標 「長野県内における解体車引き取り比率を上げる。」	入庫台数については、5,500 台に設定する。 (使用済自動車発減に伴い、目標値変更)	入庫台数については、5,500 台に設定する。	年間入庫台数 5,500 台の確保。
車輛仕入課 入庫台数を増やす。	入庫台数については、5,500 台に設定する。 (使用済自動車発生減に伴い、目標値変更)	入庫台数については、5,500 台に設定する。	年間入庫台数 5,500 台の確保。
生産課 (前処理係) 分別の徹底	ハーネスの回収量を 8 kg/台とする	ハーネスの回収量を 8 kg/台とする	ハーネスの回収量を 8 kg/台とする
生産課 (解体係) 環境負荷の低減	新規原材料の出荷増を目指し、軽油使用量を 14ℓ/hとする。	新規原材料の出荷増を目指し、軽油使用量を 14ℓ/hとする。	新規原材料の出荷増を目指し、軽油使用量を 14ℓ/hとする。
部品課 再生部品の販売を通じ、CO ₂ を削減する。	売り上げ目標を 27,000 円とする。	売り上げ目標を 27,000 円とする。	売り上げ目標を 27,000 円とする。
総務課 維持目標の値維持と事業所内衛生管理	維持目標値を念頭に環境活動を行う。 経費削減を図る。	維持目標値を念頭に環境活動を行う。 経費削減を図る	維持目標値を念頭に環境活動を行う。 経費削減を図る。



IV. 環境経営計画

項目	目標	具体的取組内容	担当	スケジュール
・省エネの推進	6月～11月	・冷房設定温度28℃以下	総務課	通年
	3月～5月	・暖房設定温度23℃以下		
	・年度を通じて 261,000kWh以下	・不要な照明の消灯 ・エアコンプレッサーからのエア漏れを防ぐ	生産課	
・二酸化炭素 排出量の削減	65kg-co2/台以下に 設定する。	軽油使用量の削減。	生産課	
廃棄物(混合廃 プラ)の削減	廃プラ5.5t以下/年	・廃棄物の削減をディーラーに呼びかける。 ・コピー用紙削減 ・古紙類・段ボール 等の削減	・ディーラー担当 車輛課 ・古紙類 総務課	通年
節水の取り組み	夏季使用量<200㎡以下 冬期使用量<200㎡以下	・洗濯用水の削減 ・凍結防止帯の張替え ・水道管の水抜き ・冬期水道元栓閉め方確認	総務課	通年
リサイクル率の 向上	リサイクル率97%以上	・入庫の促進を図る ・分別を徹底する。	車輛課 生産課	通年
フロン類の回収 向上	フロン100%回収	・フロン類適正処理推進。 ・入庫増を目指し、回収量・破壊量 ともに数値を上げる。	生産課	通年
対外的事項に ついての環境 配慮	クレームゼロを目指す。	・商品説明の明確化 ・エンジン内残オイル処理の徹底。	部品課	通年

改善目標

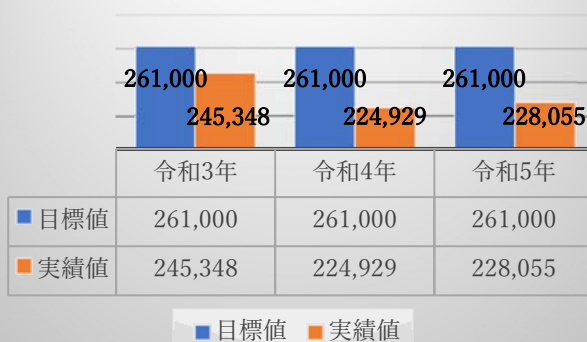
項目	目標	具体的取組内容	担当	スケジュール
車輛仕入課 長野県内におけ る解体車引き取 比率を上げる	年間入庫目標 5,500台	・設立趣旨等を説明する。 ・ディーラーの為になる解体を行う。 ・有償買取制度を導入する。	車両課長	通年
生産課(前処理係) (解体係) 分別の徹底	ハーネスの回収量を 8kg/台とする。	・前処理とニプラでハーネスを とる。	生産課係長	通年
生産課(解体係) 環境負荷の低減	新規原材料の出荷増を を目指し、軽油消費量を 14ℓ/hとする。	・新規原材料の種類を研究する。 ・オペレーターの技能習得をめざす。 ・作業時間を集約する。	生産課係長	通年
部品課 再生部品の販売を 通じ、CO ₂ 削減を 目指す。	売り上げ目標を27,000 円/台とする。	・こまめな売り上げと相場の 動向を確実にとらえる。 ・買取制度を活用し、売り上げ増を図る。 ・定期チェックを行い、検討する。	部品課長・係長	通年
総務課 維持目標値維持と 経費削減の実施。	目標値維持。 経費削減を図る。	・職員に対する啓蒙活動の実施。 ・備品の節約を行う。	総務課長・係長	通年

V. 環境経営計画の取組結果とその評価（維持目標）

1. 電力使用量の削減

項目	令和4年度	令和5年度	対前年比	評価
電力使用量 (目標値)	224,929kWh (261,000kWh)	228,055kWh (261,000kWh)	101%	○
kwh/処理1台	74.9Wh/台	58.8kWh/台	78.5%	○

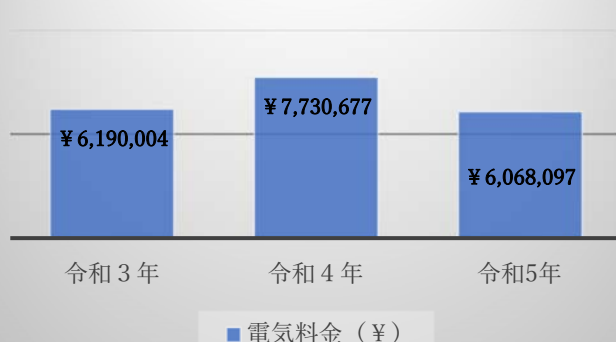
電力使用量 (kWh)



(参考) 電気料金の推移

項目	令和4年度	令和5年度	対前年比	評価
電気料金	7,730,677 円	6,068,097 円	78%	○
単位:円				

電気料金 (円)



評価)

本年度は、通期での買取りを行った。電気使用量は対前年比横ばいであったが、買取り制度実施により入庫台数が増えたため、台当たり使用量は減少した。

評価)

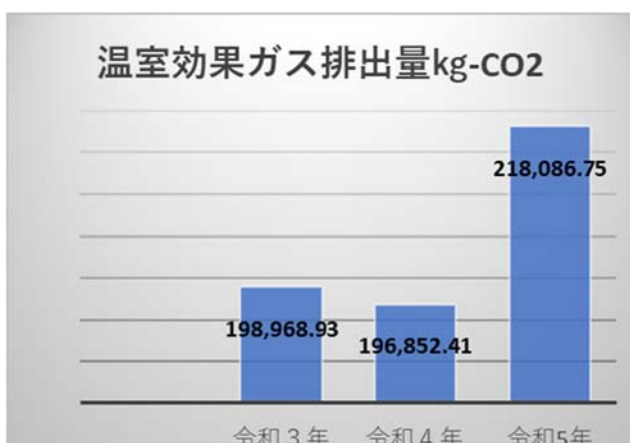
電気使用量は横ばいであったが、本年度は政府の補助金の効果により、電気料金の高騰が抑制された。

令和6年度は、補助金がなくなるため、電気料金の値上がりが予想されるため、節電に努めたい。

項目	令和4年度	令和5年度	対前年比	評価
温室効果ガス排出量 (エネルギー使用量のみ)	196,852.41kg-CO ₂ ※A 重油使用量ベースに変更	218,086.75 kg-CO ₂ ※A 重油使用量ベースに変更	111%	△
kg-CO ₂ /処理1台	65.59 kg-CO ₂ /台	56.22kg-CO ₂ /台	85.7%	○

2. 温室効果ガス排出量の削減

※令和4年度については、中部電力平成29年度調整後排出係数：0.472 kg-CO₂/kWhを使用



評価)

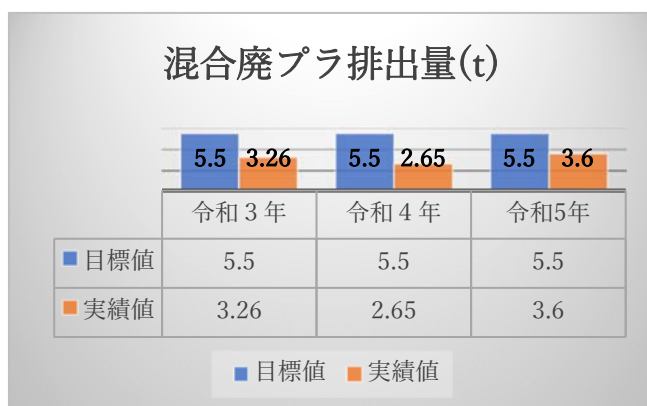
温室効果ガス排出量は令和5年度に関しては上昇している。

解体台数の若干の増加に伴い、仕事量が増えたことが原因であると考えられる。

但し、台当たりの排出量は減少した。

項目	令和4年度	令和5年度	対前年比	評価
廃棄物の削減	2.65t	3.6t	135%	△
(混合廃プラ・目標値)	(5.5t/年)	(5.5t/年)		

3. 廃棄物の削減



評価)

混合廃プラについては、昨年に比して発生量が増加した。

入庫台数の増が原因であるが、増加率が高いため、さらなる削減を目指していきたい。

項目	令和4年度	令和5年度	対前年比	評価
水使用量	実績値 2,912 m ³	実績値 3,011 m ³	114.5%	×
(目標値)	(2,400 m ³ /年)	(2,400 m ³ /年)		

4. 水使用量の削減



評価)

昨年は水道管が破裂し、使用量が増えてしまったが、本年度も12月からトイレの貯水タンクの漏水があったにもかかわらず、気付くのが遅れ、使用量が増加してしまった。

設備の老朽化が激しいため、しっかりと修理を行っていく。

項目	令和4年度	令和5年度	対前年比	評価
リサイクル率向上 (入庫、処理台数目標 5,500 台)	入庫台数:3,007 台 (8,000 台)	入庫台数:3,853 台 (6,000 台)	128%	○
	処理台数:3,456 台 (8,000 台)	処理台数:3,879 台 (6,000 台)	112%	○

5. リサイクル率の向上 (入庫、処理台数を増やす)。



評価)

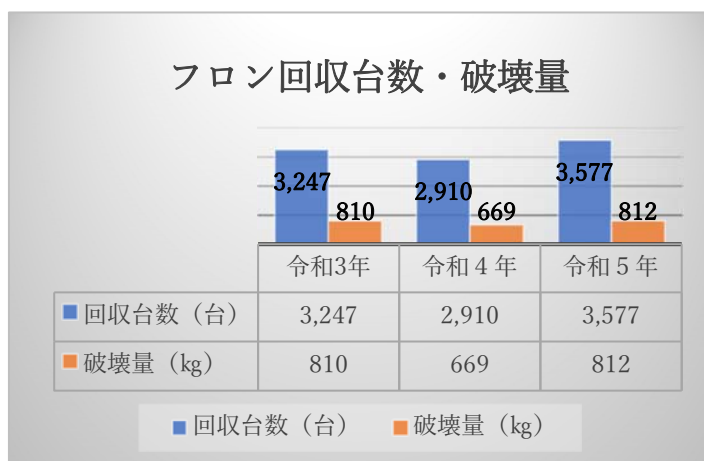
使用済自動車の買取りを通年で行ったため、入庫台数は増加した。

但し、利益を出すには十分な量ではないため、更なる入庫増が必要である。



項目	令和4年度	令和5年度	対前年比	評価
フロンの回収	回収台数:2,910 台	回収台数:3,577 台	123%	△
	破壊重量:669 kg	破壊重量:812 kg	121%	△

6. フロン回収（フロン回収率の向上）



評価)

入庫台数の増加により、フロン回収量も増えている。

但し、回収機が老朽化してきているため、若干の回収漏れがある。

機器の点検が必要である。

7. 対外的事項についての環境配慮（取引相手方の環境にも配慮した出荷を目指す。）

項目	令和4年度	令和5年度	対前年比	評価
対外的事項についての環境配慮	クレームなし	クレームなし		○

評価) 当事業所から出荷されたものについて、外部の取引先からのクレーム等はありませんでした。

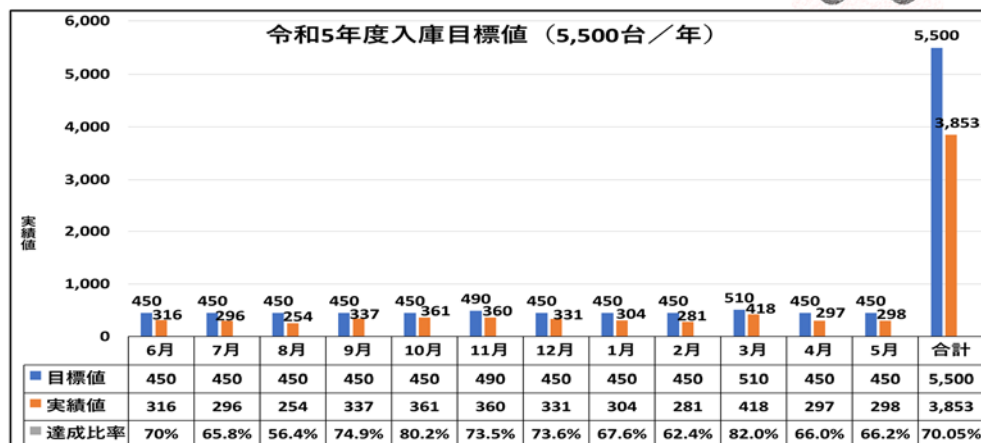
8. 参考値：紙使用量の削減

廃棄物の削減	令和4年度:使用量(枚)		令和5年度:使用量(枚)		対前年(令和4)比		評価
(コピー用紙)	A4	57,246	A4	53,698	A4	93.8%	○
	A5	6,030	A5	6,942	A5	115.1%	×
	A3	4,124	A3	3,902	A3	94.6%	○
	B4	625	B4	695	B4	111.2%	×
	B5	0	B5	0	B5	0%	

環境経営計画の取組結果とその評価(改善目標)

1. 事業所全体目標(兼車両課目標):長野県内における解体車引取り比率を上げる

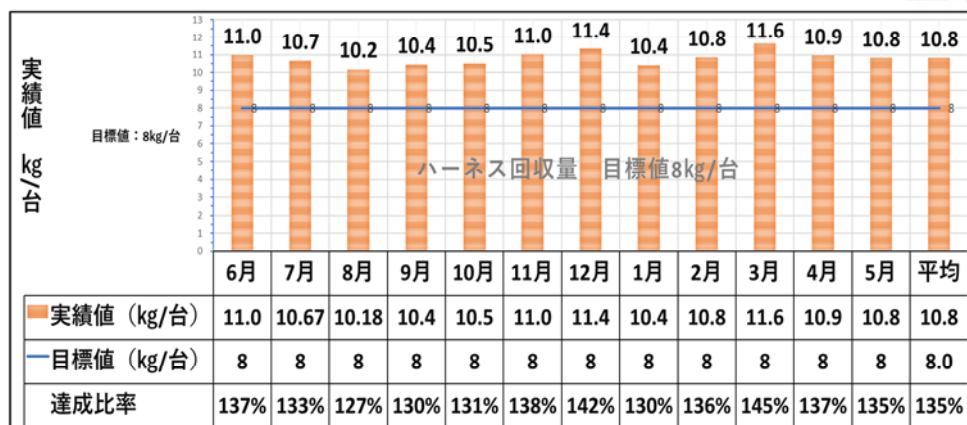
年間入庫台数5,500台の確保



6月から8月	中古車の市場流通が少なく、使用済自動車の発生が少ない。
9月から11月	普通車は中古車として値段が高く、軽自動車の入庫比率が高い。
12月から2月	メーカーの認証不正問題で、大口ディーラーからの入庫が減ってしまった。
3月から5月	円安が進み、使用済相当車は海外へ高値で流れている。
結果	入庫目標5,500台に対し、3,853台の結果となった。(達成率70%)
総括	年度当初から、買取りを行ったが、目標台数達成には至らなかった。 多方面からの買取りも視野に入れ、入庫増を図っていく。

2. 生産課前処理係目標:分別の徹底

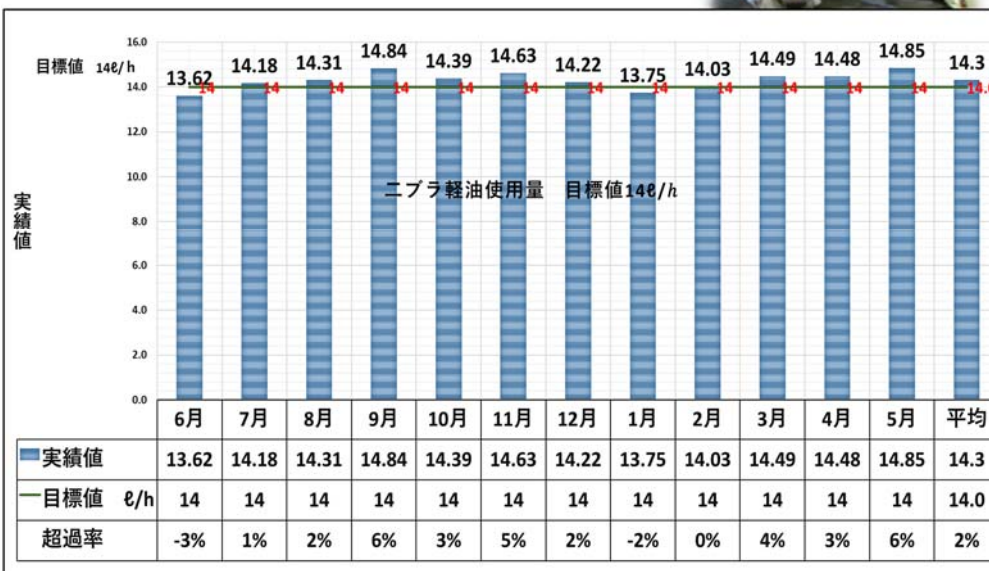
ハーネス(銅線)の回収量を8kg/台とする。



6月から8月	全て手ばらし。エコ使用については、10kg/台とする。
9月から11月	精緻な解体を継続し、ハーネスの回収増に努める。
12月から2月	全て手ばらし継続中。
3月から5月	銅価格が高騰していることから、手ばらしによる更なる回収増を図った。
結果	回収目標8kg/台平均との目標に対し、10.8kg/台の結果となった。 (達成率135%)
総括	エコ使用の場合は10kg/台の目標に対し、10.8kgの回収量となった。 ハーネス単価の値上がりの波に乗り、最大限の売り上げを達成できた。

3. 生産課解体係目標：省エネの促進

・ニブラの軽油使用量を14ℓ/hとする。



6月から8月 3か月の平均は14ℓ/hであるため、今後もこの数値を維持する。
 9月から11月 解体台数増により、数値が上がり始めている。
 12月から2月 3か月の平均は14ℓ/hであるため、今後もこの数値を維持する。
 3月から5月 オペレーターが変わったため、数値が増加してしまった。
 結果 使用量14ℓ/hの目標に対し、平均14.3ℓ/hの結果となった。(超過率2%)
 総括 インパネ分解を前処理で行うとともに、ニブラの稼働時間を集中させることにより、大幅な増加を避けることができた。

4. 部品課目標：付加価値売り上げ割合の拡大を目指す



・付加価値売り上げ目標を、¥27,000/台とする。



6月から8月 入庫は増えているが、商品単価が高い使用済自動車が少ない。
 9月から11月 コンテナや、警察車両解体により、3か月では目標が達成できた。
 12月から2月 新規取引先や販売情報等を集め、台当たり単価の上昇に努めた。
 3月から5月 新規取引先との取引を開始したが、いまだ改善の余地があるといえる。

結果	売り上げ目標27,000円/台の目標に対し、22,614円/台の結果となった。 (達成率83.7%)
総括	入庫してくる車両の付加価値が低いため、入庫増でも売り上げが伸びなかった。 新規取引先の開拓により、若干付加価値売り上げは上向きかけたが、まだまだ 市場動向をうまく捉えられておらず正確に動向をとらえることが今後の課題である。

※エコプレスとは？

エコプレスとは、使用済自動車の解体をするにあたり、自動車内に張り巡らされている銅線
モーター等をほぼすべて取り除く解体方法です。
鉄スクラップを溶解する際に、内部に銅線が残ると鉄の品質が落ちるため、品質を高める為
行う解体方法です。



5. 総務課目標:維持目標の目標値維持と経費の削減

総務課では、経理的観点から、売り上げアップに貢献するため、作業環境を悪化させずに、経費の削減をいかに図るかに主眼に置いて活動しています。

当事業所では、紙の使用量が多いため、要求項目ではありませんが、使用量の統計を取っています。また、コロナ禍は一応の終息を見たものの、水面下では流行を繰り返していることから、うがい等の励行お願いしてきました。

また、地域貢献の一環として、5月30日にゴミゼロ活動を行いました。





次年度の取組内容（維持目標・改善目標）

維持目標

項目	目標	具体的取組内容	担当	スケジュール
・省エネの推進 ・二酸化炭素 排出量の削減	6月～11月 3月～5月	・冷房設定温度28℃以下 ・暖房設定温度23℃以下	電気について 総務課	通年
	20,000kWh/月 12月～2月 27,000kWh/月 ・年度を通じて 261,000kWh以下	・不要な照明の消灯 ・エアークンプレッサーからのエア漏れ を防ぐ	コンプレッサー について 生産課	
廃棄物(混合廃 プラ)の削減	廃プラ5.5t以下/年	・廃棄物の削減をディーラーに呼びかけ る。 ・コピー用紙削減 ・古紙類・段ボール 等の削減	・ディーラー担当 車輛課 ・古紙類 総務課	通年
節水の取り組み	夏季使用量<200㎡以下 冬期使用量<200㎡以下	・洗濯用水の削減 ・漏水箇所の早期発見 ・水道管の水抜き ・冬期水道元栓閉め方確認	総務課	通年
リサイクル率の 向上	リサイクル率97%以上	・入庫の促進を図る ・分別を徹底する。	車輛課 生産課	通年
フロン類の回収 向上	フロン100%回収	・フロン類適正処理推進。 ・入庫増を目指し、回収量・破壊量 ともに数値を上げる。	生産課	通年
対外的事項に ついての環境 配慮	クレームゼロを目指す。	・商品説明の明確化 ・エンジン内残オイル処理の徹底。	部品課	通年

改善目標

項目	目標	具体的取組内容	担当	スケジュール
車輛仕入課 長野県内におけ る解体車引き取 比率を上げる	年間入庫目標 5,500台	・設立趣旨等を説明する。 ・ディーラーの為になる解体を行う。 ・有償買取制度を導入する。 ・員外買取にも挑戦する。	車両課長	通年
生産課(前処理係) (解体係) 分別の徹底	ハーネスの回収量を 8kg/台とする。	・前処理とニプラでハーネスを とる。	生産課係長	通年
生産課(解体係) 環境負荷の低減	前処理係と連携し、軽油 消費量を14ℓ/hとする。	・新規原材料の種類を研究する。 ・オペレーターの実習習得をめざす。 ・作業時間を集約する。	生産課係長	通年
部品課 再生部品の販売を 通じ、CO2削減を 目指す。	売り上げ目標を27,000 円/台とする。	・こまめな売り上げと相場の 動向を確実にとらえる。 ・買取制度を活用し、売り上げ増を図る。 ・新規取引先を開拓する。	部品課長・係長	通年
総務課 維持目標値維持と 経費削減	目標値維持。 経費削減を図る。	・職員に対する啓蒙活動の実施。 ・備品の節約を行う。	総務課長・係長	通年

VI 環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

- 1、環境関連法規の遵守状況の確認については、令和6年6月15日に確認を行いました。
- 2、環境関連法規の遵守状況に対する評価の結果
令和5年6月からの遵守状況に関して、既に令和6年5月時点までに以下の項目について報告を行なっております。
 - ・自動車リサイクル法に基づくフロン類年次報告（自動車リサイクル促進センター）—5・6月中に報告済み
 - ・第一種フロン類報告書（長野県）
 - ・ダイオキシン報告書（長野県）
 - ・産業廃棄物処理実績報告書（長野県）
 - ・産業廃棄物収集運搬実績報告書（長野県）
 - ・産業廃棄物管理票交付等状況報告書（長野県）
 令和5年度については、報告漏れ等に関する国、地方公共団体からの指摘はありませんでした。令和6年度についても、法律の遵守状況等を確認し、報告漏れ、法令違反等がないよう配慮をしていきます。
- 3、環境関連法規違反についての外部からの苦情、訴訟等の事例は令和5年度についてはありませんでした。また、こうした苦情、訴訟等については過去3年を遡ってみても事例は一件もありません。
なお、令和5年度、当事業所へ見学に訪れた団体等については以下の通りとなっております。

令和5年 6月	祢津小学校4年生	35名
10月	南信三菱自動車株式会社	1名
11月	長小学校	20名
11月	東塩田小学校	50名
11月	滋野小学校	39名
11月	丸子北小学校	63名
4月	スズキ自販長野株式会社	12名

Ⅶ. 代表者による全体の評価と見直しの結果

代表者による全体の評価と見直しの記録（令和 6 年 6 月 15 日）
維持目標

目標項目	目標達成状況	活動計画実施状況	コメント
省電力	○	○	政府の補助金の効果により、電気使用量はほぼ横ばいであったが、使用料金が減少した。令和 6 年度は補助金が打ち切られるため、節約を徹底する。
温室効果ガス排出量の削減	○	○	解体台数が増えたため、数値は上昇した。ただし、台当たりの削減量については改善が見られ、良い傾向である。
廃棄物（混合廃プラ）の削減	△	△	混合廃プラの排出量は若干増えたが、入庫台数の増が影響している。ただ、目標値を下回っていることから、良しとしたい。
水の使用量の削減	×	×	漏水の見落としにより使用量が増えている。故障疑いのある個所はこまめに修理してほしい。
リサイクル率向上	○	○	銅線をはじめとする車内の素材についてはほぼ取りつくしている。リサイクル率については目標を達成できているといえる。
フロン回収	△	△	フロン回収機の老朽化により若干回収漏れが散見される。修理可能個所は修理をしてほしい。

対外的事項についての環境配慮	○	○	令和5年度は外部からのクレームはなかった。
----------------	---	---	-----------------------

改善目標

目標項目	目標達成状況	活動計画実施状況	コメント
年間入庫台数 5,500 台の確保	×	△	通年で買取りを行い、入庫台数は若干増えた。しかし、まだ、目標台数には及ばない。
生産課・前処理係 ハーネス 8 kg／台以上回収	○	○	ほぼハーネスについては取りつくしているとみられ、目標値も上回っている。
解体係 軽油使用量 140／h とする	○	○	稼働時間を工夫し、ほぼ目標値を達成している。
部品課	△	△	入庫車両の内容に影響されるが、市場調査を通じて更なる伸びを期待したい。
総務課	○	○	修理が必要な個所については、積極的に修理を行って欲しい。
車両仕入課	×	△	若干入庫は増えているが、目標値にはいまだ達していない点が反省点である。

1. 代表者による全体の評価

本年度は、年度を通じて使用済自動車の買取りを行った初めての年度であり、結果、入庫台数、解体台数ともに増えたことは一応の評価に値すると言えます

また、職員も使用済自動車から発生する素材を集めるため精緻な解体に取り組んでくれたことには非常に感謝しています。

ただ、年度を通じて、急激な円安が進み、一部自動車メーカーによる不正が発覚するなど市場環境は目まぐるしく変化し、当事業所の運営もそうした社会情勢の影響を



大きく受け、収益的には目標値を大幅に下回る結果となってしまいました。

2. 代表者による見直し

年間を通じ使用済自動車の買取りを行う中で、今後、事業所の経営を好転させるために必要な課題がいくつか見えてきました。そうした課題を洗い出し、私を含め職員とともに解決しながら今後の事業運営に生かしてまいりたいと考えております。

令和6年6月15日

長野県中古自動車リサイクルセンター

東部町事業所

所長 小川 政勝